

1.8ℓびんの環境配慮と今後の課題

1

回収びんの品質について

回収びんは、洗びんの後、検査機や目視で入念に検査を行います。かつてはリユースびんには下部に白い擦れ跡があるのが当たり前で、消費者もあまり気にすることはありませんでしたが、現在ではわずかな擦れ跡も嫌われるようです。そのため、最近では新びん同様の品質が求められることもあるようです。

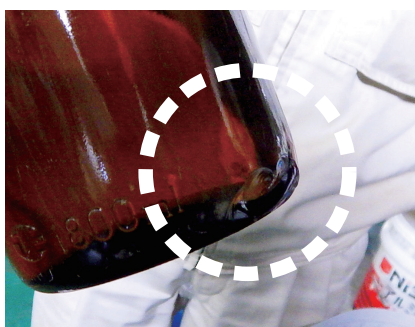
空きびんにキズがつくのは、回収や運搬の際にびん

同士がぶつかったり擦れ合ったりするためです。バラびんではそのようなキズがつきやすいので、P箱が重要となります。また栓をしたままの状態で長い間放置されたびんは口金部分に栓のサビがつくこともあります。洗浄してもとれにくいので問題となります。

回収びんの品質で問題となるのは、以下のようなケースです。



①キズ跡：びんにキズがついたもの



②底欠け：びん底が欠けたもの



③口欠け：口の部分が小さく欠けたもの



④口サビ：長期間の放置によりサビついたもの



⑤糊跡：濡れた状態でわかるもの



⑥糊跡：乾いた状態でないとわからないもの



⑦びんに貼られたガムテープ



⑧びんに書かれた油性マジック